

学校防災だより

大崎市立古川第五小学校
令和4年9月26日(月)

第1学期がもうすぐ終わろうとしています。休み時間など天気の良い日には校庭で鬼ごっこや長縄跳びをしたり、雨の日は教室や図書室で静かに本を読んだり、安全に楽しく過ごす様子が見られます。

さて、今年も3月16日の地震、7月13日の集中豪雨、そして先日の台風14号と自然災害が発生しています。本校でも防災教育を行い、その一環として地震、水害、雷、竜巻等を想定した避難訓練を実施しています。また職員は、自校で作成した「学校生活安全（防災）マニュアル」を基に緊急災害時の対応に備えています。

今年度実施している防災学習と職員研修の紹介

実施日	項目	実施内容
4 / 6	防災研修会①	・職員で緊急災害時の避難経路を実際に歩き確認した。
5 / 11	放送を聞く訓練① (業間)	・校舎内または校庭など、どこにいても緊急放送を聞くときは、その場にしゃがんでしっかり聞くことを確認。
6 / 7	総合的な学習の時間 (3・4校時)	・6年生が学年PTA行事を兼ね、ゲストティチャーとして佐藤敏郎氏を招き、防災に関わる講話を聞く。
6 / 17	放送を聞く訓練② (業間)	・児童に予告をせず、緊急放送を聞く訓練を行った。真剣に取り組む様子が見られた。
6 / 23	防災研修会② (打ち合わせ)	・児童引き渡しの仕方について、安全部担当で役割分担をしてシミュレーションしたものを、オンラインで確認し合いながら研修した。
6 / 30	避難訓練(5校時) 引き渡し訓練 (6校時～)	・地震を想定した避難訓練を行った。 ・保護者に協力していただき、引き渡しの仕方を確認しながら訓練を実施した。
7 / 15	避難訓練(2校時)	・水害を想定した避難訓練を行った。垂直避難(1階から2階へ、2階から3階へ)の移動の仕方を確認した。
9 / 7	避難訓練(昼休み ～5校時)	・雷、竜巻を想定した避難訓練を行った。発生情報が入ったら速やかに伝え、児童は建物(校舎)の中に落ち着いて避難することを確認した。
11 / 2	放送を聞く訓練③	
11 / 9	避難訓練	・火災を想定した避難訓練を計画しています。

その他：4年生が「総合的な学習の時間」で、防災についての学習に取り組んでいます。

引き渡し訓練



※裏面に学校生活安全マニュアル(地震想定概要版)を載せました。ご覧ください。

学校生活安全（防災）マニュアル【地震想定概要版】

大崎市立古川第五小学校

地震発生！

安全確保

管理職・教職員の対応

- ・的確な指示
「机の下にもぐる」「頭部を守る」等の指示
- ・出口の確保
- ・火災等の二次災害の防止

児童の対応・留意点

- ・揺れが生じたら机の下にもぐる。
 - ・姿勢を低くし、頭部を保護する。（ダンゴムシの姿勢）
- ※『落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所』へ

揺れがおさまる

- ・校内放送、ハンドマイク等で安全が確認できるまで、その場を動かないように指示（教頭）
- ・避難経路、避難場所の安全確認（主幹教諭・防災主任）
- ・救急セット、AED（養護教諭）
- ・緊急時連絡カード（事務）
- ・情報収集（校長）

避難誘導

「お・は・し・も」を守って、校庭（第2次避難場所）へ避難開始

授業中

- ・授業者が児童の避難誘導をする。
- ・トイレ、特別教室、体育館等に児童が残っていないかを確認する。（検索係）

休み時間・清掃中

- ・近くにいる教職員が児童を誘導する。
- ・校舎内に児童が残っていないかを確認する。（検索係）

安否確認・待機

- ・人員点呼と安否確認（担任）
- ・負傷者の確認と応急手当（養護教諭）
- ・関係機関への連絡（教頭）

- ・次の指示があるまで、静かに待機する。

引き渡し

- 震度5強以上
- 震度5弱で安全な下校が困難な場合

- ・保護者へ学校メールで連絡（教頭・主幹教諭）

- ・緊急時連絡カードと照合しながら、保護者または登録している引き受け者へ児童を引き渡す。（担任）

学校が災害時避難所となっているため、大崎市災害対策本部と連絡を取り合い、避難所運営についての協議をする。

（教頭）

学校でそのまま待機

- ・保護者と連絡が取れない場合
- ・保護者または登録している引き受け者が来校するまで